

5 コンサルティング活動

□産業振興分野

全国コーディネート活動ネットワーク

事業コンサルティングの対応に必要なコーディネート力の強化に向け、文部科学省主催「全国コーディネート活動ネットワーク」事業に参画した。これは県内等に限られていたコーディネーターの連携チャンネルを、県外、全国まで拡大強化し、産学連携活動をより効果的に成果に結び付けることをねらいとした事業である。全国を6地域(北海道・東北地域、関東甲信越地域、中部地域、関西地域、中国・四国地域、九州・沖縄地域)に区分し、今年度は各地域において2回の会議が開催された。地域会議では各大学から提起のあった課題や問題点につき意見交換を行い、各種情報を共有することで今後のコーディネート活動に反映してゆくことをねらいとしている。さらに全国会議のほか、はじめての試みとして地域間連携会議が開催された。これらの活動概要を報告する。

■ 全国コーディネート活動ネットワーク「第1回 関西地域会議」

平成24年7月30日～31日(大阪市立大学、京都市サーチパーク)

1日目は、文部科学省施策説明、経済産業省施策説明後、大阪市信用金庫・企業支援センターや大阪産業創造館によるイノベーション創出に向けての新しい取り組みが紹介され、自治体と金融機関の先進的取り組みに関心が集中した。ひきつづき、全員討議でコーディネーターの資質や能力、産学官連携活動の将来像について意見交換を行った。

2日目は、伝統技術と先端技術を融合して、京都らしい産業おこしを進めている、京都の3つの産学公連携拠点を視察した。(京都バイオ計測センター、京都市産業技術研究所、京都府中小企業技術センター)



■ 全国コーディネート活動ネットワーク「第1回 地域間連携会議」

平成24年10月4日(キャンパスプラザ京都)

関東甲信越地域と関西地域のコーディネーター間の連携をねらいとした、はじめての地域間連携会議に出席した。これまでのコーディネーターの地域会議と全国会議の中間に位置する地域間連携を意図した試みと考えられる。

新規の試みとして、ワールドカフェ方式によるグループワークを行い、関東地域のコーディネーターと「産学官連携ネットワークによるグローバル競争力強化の大都市連携」という難テーマでディスカッション、まとめ報告を実施した。



■ 全国コーディネート活動ネットワーク「第2回 関西地域会議」

平成 25 年 1 月 16 日～17 日(立命館大学)

産学官連携の戦略的展開とコーディネーターへの期待と題して、文部科学省施策説明が行われた。イノベーション創出に向けて、コーディネーターの役割が、これまでのニーズとシーズのコーディネーションからビジネスモデル、開発シナリオの構想、企画などプロデュース機能へ発展すべきとの期待が表明された。

杉光一成氏(金沢工業大学大学院 知的財産科学研究所 センター長 教授)が「デザインとイノベーション」と題して、基調講演を行った。これまでの「マーケットプッシュ型」や「テクノロジープッシュ型」のどちらでもない「デザイン・ドリブン型イノベーション」が今後、重要となり、そのための知的財産戦略を研究中との報告である。滋賀大学が追求する文理融合アプローチと共通する概念であり、参考になった。また、滋賀大学もメンバー参加している「産学官連携の費用対効果研究会」の活動紹介が行われた。

**■ 全国コーディネート活動ネットワーク「全国会議」**

平成 25 年 3 月 14 日～15 日(学術総合センター2F 一橋講堂)

第1日目は、文部科学省施策説明;里見朋香氏(科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長)、経済産業省施策説明;小野裕章氏(経経済産業政策局 地域経済産業グループ 参事官)の後、ノーベル賞受賞で話題の「iPS細胞」作製に有用な製品・技術を多数保有するタカラバイオ株式会社の仲尾功一氏による基調講演があった。

第2日目は分科会1『ライフイノベーション』、分科会2『地域連携』、分科会3『持続的な人材育成』の3分科会に分かれて討議に参加した。『ライフイノベーション』分科会では、現在取組中の事業コンサルティングに役立つ先端的な情報収集を行った。また、『地域連携』分科会では、地域連携の未来を拓く為のディスカッションに参加し、滋賀大学からは人文・社会科学系の地域連携取り組みを紹介した。



(文責 特任教授 山本 卓)